大温室の病害虫発生状況について

柴田昌男・田中万夫

大温室の病害虫駆除作業については，すでに本誌第２，４号に報告しているが，引き続き大温室の病害虫発生状況を把握するため，定期的な調査を行ったので結果を記録する。

調査は，昭和62年４月～63年２月の毎月５，15，25日に大温室内を巡回し，病害虫の種類とその被害のあった植物の種類を記録した。

調査の結果，顕著な害を及ぼす病害虫には，アブラムシ類，カイガラムシ類，ハダニ類，シンクイムシ類，スス病，ウドンコ病，灰色カビ病などがあった。この中で，ほぼ恒常的に発生して被害が大きかったのは，アブラムシ類，カイガラムシ類，スス病で，その区域は図のとおりであった。その他の病害虫の発生は一時的なもので，現行の薬剤散布で防除可能であった。

図から明らかなように，恒常的な被害があった区域はいずれも窓に面した場所であった。これは，窓際は日照，温度等植物にとって環境が良く，新芽の成長が盛んで，従って，これに寄生する病害虫が多いためと考えられる。

対策として次の方法が考えられるので，新年度はこれらの方法を実行し，更に調査を継続してゆきたい。

1．業者委託による薬剤散布の見直し
　使用薬剤，散布回数，散布方法等
2．環境の改善
　通風を良くする。
3．かん水時に葉裏にも水をかける

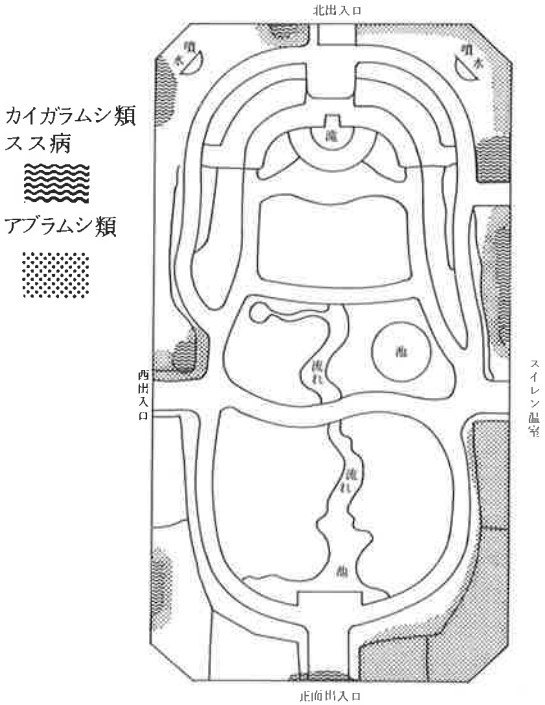

図　病害虫による被害が恒常的に見られる区域

大温室病害虫駆除委託で散布した薬剤の種類および散布回数

薬剤名（稀釈倍数）		60年度	61年度	62年度
殺虫剤	アクテリック乳剤（1500）	2	3	3
	エストックス乳剤（2000）	2	4	0
	オルトラン水和剤（1000）	5	2	3
	カルホス乳剤（1500）	0	0	3
	スプラサイド乳剤（1500）	5＋(2)	4	6
	スプレーオイル（150）	(6)	(9)	(10)
殺ダニ剤	ケルセン乳剤（2000）	5	4	0
	ダニカット乳剤（1500）	2	2	3
	テデオン乳剤（1500）	5＋(2)	3	3
	プリクトラン水和剤（2000）	2	4	3
殺菌剤	ダイセンステンレス乳剤（1500）	0	(9)	0
	トップジンM水和剤（1500）	5＋(6)	4	(10)
	バイレトン(5)水和剤（1500）	0	4	3
	ベンレート水和剤（1500）	4	3	3
	マンネブダイセンM水和剤（500）	5＋(2)	0	3
	ロブラール水和剤（1500）	0	2	3

１回の使用薬量は1000ℓ（大温室内全域散布）と500ℓ（局部的に散布）の場合があり，１回500ℓの施行回数を（　）で表した。